

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 相模原市立谷口保育園

発効：平成 21 年 3 月 25 日（平成 24 年 3 月 24 日まで有効）



社団法人神奈川県社会福祉士会
福祉サービス第三者評価

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	サガミハラシリツ ヤグチホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	相模原市立 谷口保育園
事業所住所 最寄駅	〒228-0818 神奈川県相模原市上鶴間本町4-47-10 小田急線相模大野駅下車 徒歩10分
事業所電話番号	042-742-6915
事業所FAX番号	042-745-3951
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 野呂 能理子
法人名及び 法人代表者名	運営主体名 相模原市 代 表 者 相模原市長
e-mail	
問合せ対応時間	

事業所の概要1

開設年月日	昭和51年4月1日
定員数	120名(乳児定員24名)
都市計画法上の用途地域	
建物構造	鉄筋コンクリート造り一部2階建て
面積	敷地面積(1628)㎡ 延床面積(716)㎡

事業所の概要2(職員の概要)

総職員数	24名+非常勤人数12名
うち、次の職種に該当する職員数	施設長(1名) 保育士(21名+1日の非常勤人数9名) 保健師・看護師(0名) 栄養士(0名) その他(庁務作業員 1日の非常勤人数1名 調理員 2名+1日の非常勤人数2名)

事業所の概要3(受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後2ヶ月~小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考:平日18時から19時まで
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	無	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

意欲と思いやりのある子ども 安全で伸び伸びとした生活ベースに基礎体力づくりをめざす ふれあいの場など、いろいろな経験をしていくなかで、思いやりや豊かな感性を育てる 自主性を大切に意欲を育てる
--

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

優れている点・独自に工夫している点：

一人ひとりに合わせた個別保育を実施し、発達に応じた環境を作り、子どもが自分のペースに合わせて活動できるようにしている。不安定な時などは、1対1の時間を設け、スキンシップをとったり、気持ちをくみとり、安心して過ごせるようにしている。

オープンスペース、異年齢交流では、保育士が子ども同士のやりとりや衝突を見守りながら、お互いの話を聞き、自分と相手の思いや考え方の違いに気付くことができるようにして、思いやりや感性が育つようにしている。

家庭との連絡を密にするため、連絡帳や各クラスのホワイトボードで保育園での様子を細かく報告している。ホワイトボードでは、1週間分の情報をクリップでとめ、何日分かをまとめて確認できるよう配慮している。また、懇談会では、事前に保護者から意見・要望を聞き反映させている。個人面談も、年複数回行われており、希望すれば随時、個別に実施している。

谷口保育園の保育方針のひとつである、ふれあいの場を大切に、地域の子どもたちとの交流を活発に行っている。年間を通して園庭を地域に開放し、地域交流事業や誕生会等への参加を積極的に呼びかけている。

年齢に応じた当番活動、お手伝いを体験し、感謝されたり、認められたりすることで、人の役に立つことに喜びを感じられるようにしている。

近隣の公園など、散歩の外出先のリストを作成している。リストには、各公園などのトイレや、遊具設備、緊急時の対応などが記載されており、最新の情報が見取り図や写真で具体的に分かりやすく載っている。実習生が同行する際の、オリエンテーションの資料としても活用している。

地域の子育て支援として、近隣の保育園との合同で、「えくぼ」や「ハッピーらんど」等の育児講座を開催している。社会福祉協議会や母親クラブ等とも交流を持ち、情報交換を行っている。

食に関する取り組みとして、「食育だより」で各クラスの取り組みの様子を保護者に伝え、事務所に、給食のサンプルを提示したり、献立の中からおすすめのレシピを紹介している。ランチルームでは、子どもたちが、毎日のメニューの食品を食育ボードに貼り、食物の身体への働きを知ることができるようにしている。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	園児や保護者に対する適切な言葉遣いや態度については、「谷口保育園保育マニュアル」に定め、職員会議等により、共通認識をもち、保育に取り組んでいる。外国籍の保護者には、配布物にルビをふったり、行事の前などには個別に説明したりして、個別の対応を日頃から心がけている。 相模原市個人情報保護条例が制定されており、職員会議等での周知や園内に個人情報保護に関するパンフレットを掲示し、職員の意識の徹底をはかっている。また、実習生やボランティア、見学者の受け入れにあたっては、受け入れマニュアルを整備し、プライバシーの保護について説明をするなどして、徹底をはかっている。
---	--------	---

2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<p>家庭との連絡・情報交換は、マニュアルで手段、方法等を定め、連絡帳や連絡ノート、園だより、クラスだよりのほか、送迎時に保護者が確認できるように、その日の様子をホワイトボードに書き込み、連絡を密にしている。ホワイトボードの内容を紙に書き込む形にし、1週間分をクリップでとめて見られるようにしている。</p> <p>懇談会は年2回実施している。開催前の出欠確認の際に、保護者に意見・希望を記入してもらい、内容を反映している。個別面談は期間を決めて実施し、必要に応じて随時、行っている。保育ウィーク、公開保育は保護者に保育園での様子を見てもらう機会とし、保護者参加の行事の後には、アンケートを実施している。また、保護者が意見や要望等を出しやすいように「声の広場」を設置し、日頃から保護者の希望や意向の把握に努めている。「声の広場」の用紙は、各クラスに置いてある。</p>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<p>子どもが触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場等の物品の除菌・消毒、遊具の安全保持の管理については、「園児健康管理マニュアル」、「安全チェックリスト」に管理方法等を定め、点検実行記録をつけて、衛生面、安全面の管理に努めている。</p> <p>防犯・防災対策については、防犯訓練、避難訓練を実施し、職員会議で反省と見直しを行っている。不審者情報については、警察署に対応を相談し、行動している。また、災害等の発生時に備え、関係機関との情報交換のほか、市内の「公私立保育園緊急連絡網」により情報伝達訓練を実施している。</p>
4	地域との交流・連携	<p>地域の子育て家庭向けに、地域活動計画予定表「いっしょにあそぼ」を作成し、地域交流事業や保育園行事への参加を呼びかけている。事業の実施に当たっては、地域担当が不在のときでも園全体で協力体制がとれるようにしている。また近隣保育園との合同で、「えくぼ」や「ハッピーらんど」等の育児講座を開催している。地域の家庭相談を、継続的に行っている。</p> <p>地域の様々な人々とのふれあいや世代間交流の機会として、地域の親子との交流事業や体験学習の受け入れなどを行っている。</p>
5	運営上の透明性の確保と継続性	<p>各行事の反省をして、次年度につなげている。保護者参加の大きな行事はアンケートを実施し、保護者の意見・感想なども参考にしている。年度末に1年間のそれぞれの業務を確認、検討し、保育の見直し点検を行っている。今回の第三者評価の受審に向けての準備作業でも、項目毎の点検に全職員で取り組んだ。自己評価の結果として、園庭にも掲示板を設置したり、ホワイトボードの内容を1週間分クリップにとめて見られるようにしたりする等の改善につなげた。</p> <p>保育園の運営や事業内容について、地域からの理解が得られるよう、地域の方に向けて、園パンフレット等を用意している。また、保護者に保育園での子どもの様子を見てもらう機会として、保育ウィーク、公開保育を年間行事予定表などで情報提供している。</p>
6	職員の資質向上促進	<p>保育理念や方針については、入園のしおり、「谷口保育園保育マニュアル」に掲載するほか、保育目標を園内に掲示し、職員会議で周知して基本姿勢の共有化をはかっている。</p> <p>市保育課による保育所職員研修計画に基づき、内外研修を実施・受講している。園内研修は、係が主になり年間計画を作成している。研修成果の共有のため、受講後は、職員会議にて研修報告を行うとともに、復命書を作成して職員がいつでも閲覧することができるようにしている。</p>

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 （調査確認事項全 81 事項） を通してのサービスの達成状況	100%
---	-------------

大項目 1 の内容 (概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との 信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・ 救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項 目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>1人ひとりにあわせた個別保育の実施や発達に応じた環境を作り、子どもが自分のペースに合わせて活動をできるようにしている。</p> <p>不安定な時など1対1の時間を設け、スキンシップをとったり、気持ちをくみとり、安心して過ごせるようにしている。</p> <p>職員会議、乳幼児の話し合いで1人ひとりの子どもの状況、配慮について職員全員で確認し対応している。</p>	<p>発達に応じた環境を作り、子どもが自分のペースに合わせて活動できるようにしている。(保育日誌や、月指導計画で確認した。)</p> <p>1対1の時間を設け、スキンシップをとったり、気持ちをくみとっている。(保育日誌や、月指導計画等で確認した。)</p> <p>1人ひとりの子どもの状況、配慮について、職員全員で確認し対応している。保育士の配置は、0歳児が3対1、1歳児が4対1である。(職員会議録や、話し合いの記録で確認した。)</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>オープン保育や、異年齢の交流など、共に活動する機会がもてるよう援助している。</p> <p>子ども同士のやりとりの中で、衝突を見守りつつお互いの話を聞き、自分と相手との思いや考え方の違いが存在することに気付けるようにしている。</p> <p>共に生活する中で障害や発達の違いなどの個性を認め合えるよう援助している。</p>	<p>異年齢児が共に活動する機会が持てるよう援助している。(オープン保育の様子や、保育日誌で確認した。)</p> <p>子ども同士の衝突を見守りつつ、お互いの話を聞いている。自分と相手との思いや考え方の違いに気付けるように保育している。(月指導計画や、保育日誌で確認した。)</p> <p>障害や発達の違いなどの個性を認め合えるよう援助している。(障害児童が他児童と同じ日課で保育されている様子や、保育日誌等で確認した。)</p>
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>異年齢交流やオープン保育のなかで子ども同士が刺激しあい成長している。</p> <p>当番活動や簡単なお手伝いを体験しながら、人の役に立つことを認めてもらうことで喜びを感じられるようにしている。</p> <p>地域の親子との交流事業を通し、いろいろな人とのふれあいを経験している。</p>	<p>異年齢交流やオープン保育のなかで、子ども同士が刺激しあい、成長している。(保育日誌で確認した。)</p> <p>当番活動などで、人の役に立つことを認めてもらい、喜びを感じられるよう保育している。(当番活動の表や、当番活動の様子、保育日誌で確認した。)</p> <p>地域の親子との交流事業で、いろいろな人とのふれあいを経験している。(保育日誌で確認した。)</p>

<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>日常生活に必要な挨拶が身につくよう、職員から率先して挨拶している。</p> <p>コーナーを設置し、ごっこ遊び、ままごとなど子どもが自ら選び、遊び込めるような室内環境を整えている。</p> <p>絵本や視聴覚教材を遊びや生活の中で取り入れている。</p>	<p>職員が挨拶の声掛けをしている。 (職員が率先して挨拶している様子や、保育日誌で確認した。)</p> <p>常設コーナーとして、ままごと、ブロック、絵本、製作があり、それぞれコーナーを分けて設置し、子どもが好きなコーナーで遊べる環境を設定している。(コーナーの様子や、保育日誌で確認した。)</p> <p>視聴覚教材を取り入れている。(紙芝居を行っている様子や、保育日誌で確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>読み聞かせをしたり、絵本コーナーを常時設置し、親しみのもてるような環境を整えている。</p> <p>子どもの話を優しく受けとめ共感し、話したい気持ちを大切にしている。</p> <p>集会や誕生会など、大勢の前で話したり、発表する機会をもっている。</p>	<p>絵本コーナーは、各クラスに設置している。それぞれの年齢に合わせた絵本などを整えている。(各クラスの絵本コーナーの様子や、保育マニュアル等で確認した。)</p> <p>子どもの話を優しく受けとめ、共感し、話したい気持ちを大切にしている。(保育マニュアル等で確認した。)</p> <p>集会や誕生会など、大勢の前で話したり、発表する機会をもっている。(保育マニュアル等で確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>じっくり遊び込める環境作りを心がけ、楽しんで活動ができるよう援助をしている。</p> <p>生活の中で、音楽を聴いたり、歌ったり、身体を動かす活動を楽しめるようにしている。</p> <p>興味や自発性を大切に、様々な表現活動ができるよう援助している。</p>	<p>じっくり遊び込めるとは、一つの遊びを中断せず集中してやる、満足できるまでやることで、そのことにより遊びの内容に工夫がみられ、変化してきているとの説明があった。(保育日誌で確認した。)</p> <p>音楽を聴いたり、歌ったり、身体を動かす活動を楽しめるようにしている。(保育日誌で確認した。)</p> <p>興味や自発性を大切に、表現活動ができるよう援助している。(保育日誌で確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>ままごとやごっこ遊びを取り入れ、友だちとイメージをふくらませ、共有しながら遊ぶ喜びを味わえるよう環境を整えている。</p> <p>運動会、保育ウィーク、みんなのはっぴょうかいの行事を通し、みんなで協力してひとつの物を作り上げる喜びを感じられるようにしたり、1人ひとりの意欲を育てている。</p> <p>様々な素材に触れ、イメージをふくらませながら、製作活動ができるようにしている。</p>	<p>ままごとやごっこ遊びを取り入れ、友だちとイメージをふくらませ、共有しながら遊ぶ喜びを味わえるよう環境を整えている。(ままごとや、ごっこ遊びの道具、保育日誌で確認した。)</p> <p>運動会、保育ウィークなどで、協力してひとつの物を作り上げる喜びを感じられるようにしたり、意欲を育てている。(保育日誌で確認した。)</p> <p>様々な素材とは、毛糸や空き箱、牛乳パックなどで、創作活動に活用している。(様々な素材や、創作活動で作った作品、保育日誌で確認した。)</p>

<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>絵本や紙芝居、パネルシアター、誕生会等の視聴覚教材を見たり聴いたりして、豊かなイメージを育てる。</p> <p>体育遊びのコーナーで身体を十分に動かして遊ぶ。</p> <p>季節感の感じられる遊びや手、足、指先を使い、その感触を楽しむ。</p>	<p>絵本や紙芝居、パネルシアター、誕生会等の視聴覚教材を見たり聴いたりして、豊かなイメージを育てている。(視聴覚教材の内容や、保育日誌等で確認した。)</p> <p>体育遊びのコーナーで、身体を動かして遊んでいる。(保育日誌で確認した。)</p> <p>季節感の感じられる遊びやその感触を楽しんでいる。いろいろな色の毛糸をつないで、毛糸の感触や色を楽しみながら「手編み君」で遊んでいる。(編み物を楽しんでいる様子や、保育日誌で確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>野菜や植物の栽培をしたり、生き物を飼育することにより親しみや愛情がもてるようにしている。</p> <p>遠足や散歩に出かけ、自然や環境に触れ、興味、関心を育てている。</p> <p>乳児クラスは、各年齢の発達、発育に応じて探索活動が十分できるように、安全に配慮しながら、玩具の種類、配置場所などを見直し、興味、関心をもって遊べるようにしている。</p>	<p>野菜や植物の栽培をしたり、生き物を飼育している。水栽培のサフランが3鉢だけ花が咲かず、今もそのまま育てている。(水栽培のサフランの様子や、保育日誌等で確認した。)</p> <p>遠足や散歩に出かけ、自然や環境に触れている。(保育日誌や、月指導計画、園外保育で確認した。)</p> <p>例えば、2歳児のままごとコーナーは、怪我のないよう安全に配慮しながら工夫し準備している。(2歳児のままごとコーナーの様子や、保育日誌で確認した。)</p>
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>育てた野菜を調理してもらい、ランチルーム形式での食事を楽しみながら食に対する意識を高めている。</p> <p>1人ひとりの体調や、食事量を把握して調節している。</p> <p>トイレを気持ち良く使えるように、環境を整えている。</p>	<p>育てた野菜を調理してもらい、ランチルーム形式での食事を楽しみながら、食に対する意識を高めている。(ランチルームの様子や、保育士の声掛けの様子、保育日誌で確認した。)</p> <p>下痢とか嘔吐の時は、油物を控えおかゆにしたり、朝の受け入れ時に母親と確認したり、園でも判断し、対応している。(保育士の声掛けの様子や、保育日誌、連絡ノート等で確認した。)</p> <p>桃組(2歳児)はトイレ用のサンダルを履くことに慣れていないので、お風呂マットを敷いて、慣れてからサンダルへの移行を図るなどの工夫をしている。また、慣れてきたらサンダルを次の人のために揃えてぬぐなど、発達段階を捉えて保育している。(トイレの様子や、保育日誌、月指導計画で確認した。)</p>

<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>1人ひとりの発達をふまえ、身の回りのことを自分でしようとする意欲を見守り、援助すると共に職員間での共通理解を大切にしている。</p> <p>食物と栄養について、食べ物ボードに食べ物カードを子どもたちと一緒に貼り、理解を深めている。</p> <p>絵本や紙芝居を通し、食事や休息の大切さが理解できるようにしている。</p>	<p>1人ひとりの発達・発育の状況については、児童票（学期ごとの記録）に記載。0、1歳児は一ヶ月毎、2歳児は二ヶ月に一度、3歳児以上は三ヶ月に一度確認している。（保育日誌等で確認した。）</p> <p>食物と栄養について、食べ物ボードに食べ物カードを子どもたちと一緒に貼り、理解を深めている。（食べ物ボード等で確認した。）</p> <p>絵本や紙芝居を通し、食事や休息の大切さが理解できるようにしている。（保育日誌で確認した。）</p>
---	---	--

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>オープン保育や異年齢児とかかわるなかで、思いやりの気持ちや意欲が育っている。</p> <p>園庭遊び、散歩、体育遊び、集団遊びなど全身を使う活動を通し、健康に生活できるように工夫し、安心して過ごせるようにしている。</p> <p>0歳から農道に散歩に行き、花や作物を見て、自然の移り変わりを感じ、歩くことによって体全体を動かすことができる。</p>	<p>オープン保育や異年齢児とかかわるなかで、思いやりの気持ちや意欲が育っている。(異年齢児との関わりの様子や、保育日誌、月指導計画、連絡帳で確認した。)</p> <p>全身を使う活動を通し、健康に生活できるように工夫し、安心して過ごせるようにしている。(保育日誌や、月指導計画で確認した。)</p> <p>農道に散歩に行き、花や作物を見て、自然の移りわりを感じ、体全体を動かしている。(保育日誌や、月指導計画で確認した。)</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>乳児保育、延長保育は家庭的な雰囲気の中で、落ち着いて過ごせるようにしている。</p> <p>障害児保育は、個別カリキュラムをたて、様子を全職員に周知している。</p> <p>当番職員は口頭及び連絡・引継ぎノートを使用し、家庭からの連絡、園での様子、体調の変化などの伝達事項を担当職員に伝えている。</p>	<p>乳児保育、延長保育は家庭的な雰囲気の中で、落ち着いて過ごせるようにしている。(乳児保育の様子や、保育日誌等で確認した。)</p> <p>障害児保育は、個別カリキュラムをたて、様子を全職員に周知している。(月指導計画や、回覧票で確認した。)</p> <p>当番職員が連絡・引継ぎノートを使用し、家庭からの連絡、園での様子、体調の変化などの伝達事項を担当職員に伝えている。延長保育日誌は2ヶ所で実施しているので、1階用と2階用の2冊がある。(保育日誌や、延長保育日誌、連絡ノートで確認した。)</p>
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>調理員と連携を取りながら、個々の発育状態に合わせた離乳食を提供している。</p> <p>医師の診断書と、アレルギー対応マニュアルに基づいたアレルギー食を提供している。</p> <p>アレルギー児は、個人用トレーにネームをつけ、テーブルにもネームとマークをつけ食材のチェックをし、誤りのないよう細心の注意をはらっている。</p>	<p>給食室との話し合い会議録にて確認している。アレルギー園児数は、乳児 2人、幼児 2人、合計4人。(給食室との話し合い会議録で確認した。)</p> <p>献立票を保護者に配り、食べられないものを全部チェックしてもらっている。実際に提供するとき食材を再度チェックし、食べた物の食材を保護者に伝えている。その内容を受診時に保護者が医師と相談している。(除去食申請書等で確認した。)</p> <p>アレルギー児は、個人用トレーにネームをつけ、テーブルにもネームとマークをつけている。(ランチルームの様子や、連絡ノートで確認した。)</p>

<p>食に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>事務所前に、給食サンプルを提示している。献立の中からおすすめのレシピや写真を掲示し、食育だよりで各クラスの取り組みの様子を保護者に伝えている。</p> <p>白・緑組は食事時間を自分で選び、ランチルームで食べている。配膳、下膳も自分で行き、食べることへの関心を深め、異年齢児との食を楽しんでいる。</p> <p>当番活動は、手洗いをしエプロンをつけランチルームの準備を行い、食への意欲がもてるようにしている。また、毎日のメニューの食品を食育ボードに貼り、食物の身体への働きを知ることができるようにしている。また、食材の下準備に関わることで食物を知る。</p>	<p>食育だよりで、各クラスの取り組みの様子を保護者に伝えている。(事務所前の給食サンプルや、話し合い会議録で確認した。)</p> <p>準備ができると、当番からランチの準備ができましたの合図がある。それを聞いて、自分の判断ですぐ食べたり、もう少し遊んでから食べたり、個々の判断で行っている。食べている様子で、保育士が促しや声掛けなどしている。偏食については、嫌いなものもちよっとは食べよう・頑張ろうと促している。(ランチルームの様子や、保育日誌で確認した。)</p> <p>手洗いの後、エプロンをつけランチルームの準備を行い、メニューの食品を食育ボードに貼っている。(当番活動の様子や、保育日誌、写真で確認した。)</p>
<p>家庭とのコミュニケーションに関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>園だよりやクラスだよりを出し、日々の様子はホワイトボードで知らせている。また、個人の連絡帳で保護者とのコミュニケーションをとっている。</p> <p>公開保育、保育ウィークなどで、保育を保護者に見てもらう機会を設けている。</p> <p>懇談会、個人面談、育児相談を行い、家庭との連携を密にしている。</p>	<p>連絡ノートや連絡帳の表記方法については、保育士間で情報を交換し、お互い助言しあっている。(クラスごとのホワイトボードの内容や、保育日誌等で確認した。)</p> <p>公開保育はクラス毎ではなく、園全体で実施している。(保育日誌や、行事 公開保育で確認した。)</p> <p>個人面談は年1回だが、必要に応じて実施している。希望があれば何時でも実施している。保護者が希望せず、個人面談をしない園児もいる。(保育日誌や、個人面談記録等で確認した。)</p>
<p>地域の子育て支援に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>地域担当を中心に園児と職員、園全体で子育て支援事業をおこなっている。地域に向けての予定は、年間予定を作成し、門と玄関に掲示場所を設置、また公民館・こどもセンター等にも依頼し周知している。</p> <p>近隣の保育園と合同で子育て支援事業をおこなっている。 ・三園合同「えくぼ」(公立...東林保育園・文京保育園) ・「ハッピーらんど」(私立...くぬぎ台保育園)</p> <p>コミュニティ 保育グループの活動支援として、研修会の他に活動に参加したり、相談園として援助をおこなっている。</p>	<p>地域に向けての予定を作成し、門と玄関に掲示場所を設置、また公民館・子どもセンター等にも依頼し周知している。(掲示物等で確認した。)</p> <p>地域担当保育士の声掛けにより、合同育児講座がスタートする。現在、市立東林保育園、市立文京保育園と三園合同の「えくぼ」を行っている。また、一番最寄園の私立くぬぎ台保育園に呼びかけ、「ハッピーらんど」を実施している。(ポスター等で確認した。)</p> <p>コミュニティ 保育グループは、市から補助金の交付を受け、自主的に活動しているグループで、小学校就学前の乳幼児が対象だが、主に、幼稚園に入る前の年齢層が多い。(コミュニティグループ記録で確認した。)</p>